

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600070		
法人名	医療法人 田中会		
事業所名	グループホーム陣内		
所在地	熊本県菊池郡大津町陣内1167番地5		
自己評価作成日	令和5年12月3日	評価結果市町村受理日	令和6年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設型のグループホームの強みとして、医療との連携の体制が整っており、入居者の体調面で、早期報告、受診することができる。また24時間体制で看護師も在中しており、職員の精神面の負担の軽減にも繋がっている。又、入居者の身体面での相談も併設の施設の栄養士、リハビリ職員が常駐していることで、いつでもアドバイスをもらい、身体機能の維持に繋がっている。ご家族にも細目に報告し理解され、日々様々な協力を頂いている。普段の生活の中で職員があまり介入しなくても、入居者個々の個性や得意とすることを活かし日々いきいきと生活されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ感染症が5類に移行した今年は2年ぶりの家族会の開催をはじめ、御神幸祭や子ども相撲見学など地域の祭り見学が出来た事は、入居者にとって何よりの嬉しさとともに、職員にとっても地域の良さや受け継がれていくものを知る事ができている。また、以前大津町に新庁舎が完成したことを広報誌で知った入居者の一人から「役場を見てみたい」と発せられ、一旦は計画まで至ったがコロナにより延期されていた見学ツアーも実現している。見学後のドライブでも高層の建物をはじめ発展した町の様子に驚きと歓声があがったようである。運営推進会議はホームの現状を知ってもらう機会であり、わかりやすい資料をもと表現方法にも配慮し理解を得られるよう努力している。家族にも同様であり個々の状態は訪問時や電話、書面でわかりやすく丁寧に伝える事で安心や信頼に繋がっている。職員のチームワークの良さが入居者の笑顔を引き出しており変わらず支援が継続されていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでケアの振り返りを行い、そこで理念に沿っているか再確認している。	基本理念として“一人ひとりに最後まで寄り添うケア”として、チームワークを大切に自己研鑽に努めることを介護理念に掲げて、具体的な目標を掲げている。最後まで支援する姿勢は、家族の希望に沿い、今その時を大事に関わる職員の姿勢に表われている。また、入居者の充実した生活に役に立つという実感を持った生活を支援する等ミーティングにより方向性を統一し、ケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度から地域の催し物に参加することができた。地域の方からも運営推進会議のなかでグループホーム陣内を知っていただく機会になった。まだまだ知られておらず情報発信の工夫が必要と思っている。	感染症により地域の活動には参加は厳しかったようであるが、御神幸祭見学や地蔵祭りでは子どもたちが地蔵様を持って訪問したり、地域からの声かけにより子ども相撲見学等地域から優しく見守られるホームである。更には地域への情報発信を工夫したいとしている。また、地区の座談会へ参加する等地域の一員として活動している。	グループホームの地域への情報発信源としてホーム便りの活用等区長に依頼いただきたい。地域の中で生活により一層繋がることや、認知症ケア推進に繋がると期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に入居者のご紹介をしている。そこで実際に支援の方法や認知症の方へのかかわり方などのアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活潑な意見を頂き改めて考えさせられたことを後日報告している。また介護職としての専門用語はあまり使わず、地域の方がわかりやすく表現している。	今年度は、運営推進会議のメンバー交代時期であり(区長・民生委員)、グループホームの紹介や運営推進会議の意義を説明し、居室への入室が出来ない状況には写真での開示、委員の方々が参加しやすい曜日とする等工夫して開催している。資料をもとにした説明は、双方向の活発な意見交換となる等充実した会議である。また、会議での質問に対してあらためて説明する体制としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話で情報収集している。わからないことは直接足を運び確認している。また相談なども行っている。	運営推進会議を通して事業所の活動や取り組みを発信している。県からの情報等役場からのメールにより把握し、制度変更時(加算や人員配置等)不明な点は行政担当部署に出向いている。介護認定更新に出向きながら情報交換をしたり、認定調査に立ち会い情報を発信している。また、研修会に参加する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設の老健の勉強会の参加、ホームでの勉強会を実施している。玄関やリビングのドアは施錠せずいつでも外に出られるような環境にしています。センサー等も家族に説明の上、使用していますが随時評価を行っています。	身体拘束適正化や虐待防止のための指針を整備し、併設施設での委員会により事例検討や研修、ホーム内でも勉強会を開催している。入居者の外出傾向には目的があると捉え、自由な環境としているが、ドアには「出られるときには職員に声を掛けてください」と記す等入居者個々の外出したい思い等を把握し対応している。職員の「ちょっと待って」などつい使ってしまう声かけにはミーティングで振り返り、人感センサーを使用する場合もその都度評価し、使用可否を見極め家族の同意の下改めて使用する体制としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回職員のストレスチェックを行い、自己点検行っている。またミーティングでケアの振り返りをし拘束に当たらないかその都度確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解を深めホーム内でも複講実施している。ご家族からの質問、相談があった場合にはきちんと対応できるよう、不明な点はセンター長に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面談や重要事項説明を行い、心配や不安のないように、ご本人、ご家族の理解、納得を得、入居頂いている。料金改定の際も電話での説明を行い、後日書類郵送し確認頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	7月に約2年ぶりの家族会の開催に至り、ご家族のご要望を確認することができた。アンケートによる回答も得ており今後の運営に反映できると考えている。	入居者の意見等は日常の関わりで把握している。家族会を久々に開催し、令和2年度からの入居者の状況やコロナ禍の中での生活内容を説明し、気づきの点は遠慮無くお聞かせくださいと投げかけ、アンケートにより意見等を収集しケアサービスに反映させている。	家族会はスライドショーにより生活の様子発信や、ホーム内の見学の他、家族同士の交流の機会や家族と担当職員とのコミュニケーション強化として生かされている。コロナ禍により意見箱は撤去されており、家族の訪問も緩和されており、再設置されることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い、職員の意見や提案を確認し合いながら業務改善、実践している。時には外部からの視点でセンター長にも参加して頂き、意見や思考なども求めている。	日々の申し送りやミーティング方法を見直し、入居者の情報シートを確認しケアに入る事や業務については申し送りノートを確認する体制としている。ミーティング等そのときのメンバーで解決できる事案はその都度変更可とし、改善する事案については全員で検討する体制としている。管理者もケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、意見等を把握する等風通しの良い関係が構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体での年2回、目標管理シート、職務評価シートで自己評価し、上司との面談を行っている。評価によって賞与に反映され向上心を持って働ける環境が整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加したい研修や専門性を高めるための資格取得を進めている。研修内容によってケアに対しての考え、自らの知識の再確認ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の研修、報告会が開催されるようになり特にコロナ禍の時の状況を知ることができた。また集合での研修となり実際顔を見ての交流の場が増えていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居事前にご本人、ご家族をホームでの生活の要望を聞き取り確認し、安心して生活して頂けるよう努めている。また生活歴についても情報収集、共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最近では面会も可能となり面会時に生活の様子をお伝えしている。またこまめに電話等でサービスについての要望も伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者ご本人のADLの見極め、生活歴から何かできるのか、どんな支援が必要なのか職員間で話し合う機会を毎月設け、ご家族の意向も伺いサービスに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、ご本人、職員一緒にご飯やおかずなど器に盛ったり、毎日の日課として朝から洗濯物を干したり畳んだり、食器を洗って頂いたりそれぞれの役割をもって取り組まれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を面会時や電話、また通信紙でお伝えしている。又必要な物品などはご家族に相談させて頂き、ご家族に相談している。ご家族にご厚意により、お花や野菜を持参下さり入居者様、職員も喜んでる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は面会も可能となり、直接の会話をたのしまれたり写真を一緒に撮られたり、又以前通われていた通所のご利用者や職員に会いに行ったりと関係が途切れないよう努めている。	入居前からお付き合いのある理髪店の利用や、美容室からの送迎による継続した利用、入居前に利用していたデイサービスの職員との歓談や、相撲大会に参加する子ども達との関わり、慣れ親しんだ祭り見学、家族中心ではあるが対面での面会等今出来る関わりを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	一緒に作業したり調理したり会話ができる よう支援している。入居者同士がトラブル になりそう時は職員が間に入り、楽しい雰 囲気作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方が併設の老人保健施設にい らっしゃるので時折面会したり、またご家 族もホームに足を運んでくださり関係性が絶 えないよう配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居当初、又は定期的にご本人の思いや ご家族の思いを伺っている。ご本人の思い が困難な場合は日頃の関わりの中でした いこと、できることを探し出しそれを暮らし の中で役割として活かしケアプランに反映 している。	日常の中で入居者の思いを引き出し、言葉 での意思の伝達が難しくても何も出来ない と決めつけず、こだわりや思いを見逃さないよ う、尊厳にも配慮して対応する等言葉に頼ら ずに表情や動作等から察知している。耳の 聞こえが悪い入居者には筆談など非言語的 コミュニケーションにより把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居時の基本情報を下にご家族に定期的 に来訪時や電話などで本人のここでの暮 らしを伝えながら入居前の様子も伺って いる。ご本人とは昔の思い出話など何気な い対話を心掛け情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日頃の体調や気持ちを知る上でも、でき ないを決定するのはご本人に任せる よう努めている。心身状態の把握は毎日 のバイタル測定、食事量、水分量の把握、 排便状況、月1回の体重測定を行って いる。また定期的にかかりつけ医に受診し指 示を仰ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が中心となりご本人、ご家族からの要望を伺っている。医師からは体調面への指示と、定期的に介護職員のミーティング、リハビリ職員、言語聴覚士、管理栄養士と各専門分野と課題について意見交換をし計画を作成している。	本人・家族の要望等を把握し、ミーティングにより個々の状態を話し合っている。活動性の低下を懸念し1対1で話す時間を作ったり、リハビリスタッフに評価を依頼する等法人の持つ機能がプランニングに生かされている。3ヶ月毎のモニタリングにより大きな変化が無ければ半年毎に見直し、年に1回はアセスメントを取り直しており、認知症進行予防や心身機能維持に向け、生き甲斐に繋がる様なプランやメリハリのある生活を送りたいとする意向には役割のある日常生活等具体的且つ個別的なプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身の状態変化、言動、行動、ケア内容など日々介護記録に記録している。職員間で情報を共有し、記録をもとにケアプランの見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の援助、理美容店の付き添い、移動販売なその買い物の支援など行っています。必要時の物品購入にご家族の対応が難しい場合は職員が支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でも催し物がある際は事前に計画をたて参加し地域との繋がりを大切にしている。近隣の理容店や美容室を利用することでその人らしさを大切に、生きがいを持っていただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を築き、主に定期受診を行い健康管理に努めている。体調変化があれば、臨時受診や往診を行い早期対応に努めている。夜間の急変時においても迅速な医療連携に取り組んでいる。	入居時に法人併設のクリニックの紹介を行い、全員が了承のもとかかりつけ医として職員による定期受診を支援している。また、状況に応じて主治医や他の医師による往診や受診に出ている。職員は表情などを観察し、気になることや夜間の異常は隣接施設看護師に報告し、主治医の指示を仰いでいる。専門科受診は家族の対応としており、結果を共有している。口腔ケアについては、希望者へ歯科衛生士によるチェックと必要に応じ訪問による治療が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護師に日頃から体調変化に対し、報告と相談を行い助言を頂いている。夜間帯は併設施設の協力の下、オンコール体制をとり個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はかかりつけ医の医師からホームの担当者より情報提供を行っている。困りごとは直接電話で伺いご本人に対するスムーズなケアができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明と状況に応じてその都度ご本人とご家族と面談し、方向性の確認を行っている。現在では医療度が高くなるとご家族の希望があれば、グループホームを退居となり併設の老健保健施設へ入居される方もいらっしゃる。	入居時に重度化・終末期支援に関するホームの方針を説明しており、家族もホームでの最終を望まれている。病状によって継続した医療が必要となった場合は、主治医より隣接施設(老健)での対応を話されている。この秋、入居者家族との話し合いで、「ホームでの最期を過ごすことを望みたい」と判断され、看取り支援が行われている。共に過ごされた他の入居者も当日まで「ご飯食べんと元気が出らんよ」と励まし、最後のお見送りもされたようである。	看取り支援後は本人を偲びながらカンファレンスを開催し、日頃から「今、その時をかかわろう」と新たに思いを共有している。入居者・家族の思いに応える支援が継続されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを職員の目のつくところに備えている。様々な対応は勉強会を行い再確認するようにしている。(今度勉強会予定あり)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の備蓄に関しては、所定の位置にあることを職員も把握している。風水害の恐れがある場合はあらかじめ準備しておく。避難訓練は併設の老人保健施設と一緒に定期的実施している。	消防訓練は8月に1回目を、2回目を2月に予定している。避難場所は中庭(駐車場)となっている。自衛消防訓練チェックリストやコンセントの埃は、掃除の際確認することとしているが、定期的な実施には至っていない。備蓄はホームで備品を、食料は隣接施設で確保し職員も周知しており、防災食も実際食している。	BCPの策定については管理者が外部の研修会で学んでおり、隣接施設が主になって進められている。完成後はホーム職員間での共有に期待したい。今後は状況を見ながら地域の協力を得た訓練なども期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が入居者の居室に入居する際は、不在であってもノックをして訪室している。トイレも同様でノックをし外から声をかけ様子を伺い、状況に応じて中に入れて頂いている。	入居者の尊厳やプライバシーに配慮した支援については、食事や排泄をはじめ支援内容ごとに職員間で共有を図っている。居室へ入居の際は不在時でもノックや声掛け、トイレの確認も十分配慮しながら行われている。呼称は基本的に苗字で対応し、会話も馴れ合いにならないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が安心して話して頂けるような環境作りを工夫している。上手く表現できない方にはジェスチャーや筆談を用いて、表情、仕草などで本人の思いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれの日課に合わせ、ご本人のペースで過ごして頂けるよう配慮している。余暇時には作品作り、散歩などで季節を感じて頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度はできる限り、ご本人に行って頂き不十分なところは職員が手伝っている。衣類の選択はご本人の希望を尊重しながら季節や室温に配慮した提案をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事の盛り付けを行い、食後の茶碗洗いやお盆拭き等、それぞれに役割をもって頂き活力や能力を引き出している。	ご飯のみホームで炊き、主菜や副菜などは隣接する施設厨房で調理されている。食事は常食で提供し、料理の盛り付けなど目で楽しんでもらった後、必要に応じてカットしている。敬老会、運動会時の弁当、おやつパイキングなど目先を変えた食事楽しみとなっている。入居者の食への関わりとして、翌朝の米とぎやつぎ分け、盛り付け、食器洗いなどに取り組んでもらっている。また焼きそば作りの他、恒例の梅ジュース作り、からいもの天ぷら、高菜漬け作業は季節の行事として楽しみながら力を発揮されている。	職員は持参した弁当などを食べているが、味や量の確認を兼ねて1名でも同じものを摂ることが出来ないか検討されることを期待したい。入居者の代弁者として厨房に伝えていくことも必要と思われる。次回の家族会では、食事を一緒に摂ってもらう予定であり、家族から出された意見や感想などを今後の食に活かされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	言語聴覚士や栄養士と連携し、定期的に食事形態を見直すことで食べる楽しみを持っていただけるよう支援している。水分摂取量を把握できるよう、チェック表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアの声掛けを行っている。できるところはご自分で行っていただき、義歯の取り外しや装着、磨き残しなど不十分なところは介助を行っている。また歯科衛生士に訪問していただき指導や口腔内の清潔、保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、排せつパターンや排泄間隔を把握できるようにしているご本人にあった下着やパッドを定期的に見直し、快適に過ごしていただけるよう支援している。	排泄パターンの把握、チェック表を活用し自立の継続や定時誘導が行われている。自らトイレに入り施錠し、自分のペースで排泄する方には、時間やトイレ内の音などに気配りする職員の姿やポータブルトイレのマットが動かないよう重しを置き固定するなど工夫している。また、プライバシーに配慮しながら使用後のトイレや下着、排泄用品に汚れていないか確認されている。殆どの方がリハビリパンツで過ごされているが、布パンツや夜間のみオムツ、ポータブルトイレの使用など、個々に応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難時には下剤や座薬を使用しています。薬だけに頼らず、適度な運動や食事をバランスよく摂っていただく等便秘解消に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調不良や拒否があった場合は無理強いせず次の日に変更する等対応している。音楽を流したり、入浴剤を使用したり、リラックスして楽しみとなるよう支援している。	基本的に週2回、午後2時から4時までの間で入浴を支援している。同性介助への要望にも、表情から察し対応している。身体状況から機械浴の方もおられるが、またぎが可能な方は自身で湯船に入られている。入浴を楽しんだ後居室に戻り、保湿クリームを塗られる方や、その日の気分で拒まれる方もおられるが、声掛けの工夫や翌日に変更するなど無理なく入ってもらえるようにしている。季節湯(菖蒲・ゆず)は行事の一つとして、全員が楽しめる日数継続して取り組んでいる。	浴室の窓棚に置かれた物品については、別の場所で管理することで採光やすっきりとした空間にも繋がるものと思われる。取組に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人に合わせた室温、明るさ、寝具を調整している。昼食後は昼寝を促し、休憩や下肢の浮腫の軽減に努めている。入床時間はそれぞれの希望に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養指導があり薬について相談をしている。処方変更時は記録や申し送りにて情報共有を行っている。誤薬がないよう入居者の薬袋、名前、顔を見て声に出し、確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力が活かされるよう、身体機能に合わせて役割を持たれている。毎日の習慣となられている方もおられ、生活に張りが出ているようです。唄がお好きな方が多いため、定期的にはカラオケを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナが第5類になったことで外出が少しずつできるようになっている。散歩は希望時にできる限り行っている。移動販売やなじみの美容室へ行かれることも気分転換になっているようである。	入居者自ら外出の希望はあまり出されておらず、天候や個々の状態に合わせ支援している。日光浴や庭先でプランターの花苗植えや水やり等に取り組んでいる。訪問当日は天候もよくテラスで日光浴される姿が見られた。以前程地域への外出、交流とまではいかないが、御神幸祭や子ども相撲ヲ見学している。以前、入居者の要望であった「新役場庁舎」見学を実現させ、見学後のドライブではあまりの街並みの変化に驚きや戸惑われたようである。	地域の10年毎に開催される祭り見学ができたことは入居者の喜びと職員にとっても地域の良さや受け継がれているものを知ることが出来たものと思われる。今後は家族へも参加や協力を呼び掛けた外出支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からの定期的にお小遣いを楽しみにされ買い物されている。又、手元にお金があることで安心されている方もいらっしゃる。ご家族と相談の上、ご本人で管理されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話の希望があれば家族に電話でおつなぎしている。なかには携帯電話を持参されている方もいらっしゃる、本人に任せている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気や気候に応じて空調管理を行っている。テラスでの日光浴や家事をすることで自然の風や太陽の匂いを肌で感じてもらう。また室内の飾り付けなどで季節を味わって頂いている。	担当職員を中心に季節の壁面や飾りつけを行っている。クリスマスを前にホーム内の明るい飾り物に入居者も嬉しそうに眺めたり、手を差し伸べたりされている光景が見られた。リビングは採光もよくテラスと通じており庭先を見ながら洗濯物たたみなど、ゆっくり過ごせる空間である。午前中は入居者と職員も一緒に盛り上がる「歌かるた」の時間が持たれており、ホームの日常が窺えた。職員は室温や照明、音量など入居者の状態を見ながら設定する他、コロナ5類移行後も換気や掃除の徹底に継続して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの食事の席は決まっており、顔なじみの関係が作れている。テーブル以外で1人で外を眺めたり、又はみんなで一緒に作業したりその場、その時でそれぞれ自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が自分の部屋であると認識できるよう、入り口には表札を貼り、また居室内もカレンダー、写真、使い慣れた身の回りの品物を使われている。寝具類、衣類等はご本人、ご家族と相談しながら衣替えを行っている。	居室への持ち込みについては、自宅で使用した寝具やテレビなど例を挙げながら説明しており、家族も数回に分けて持ち込まれている。入居後も居室入り口の目印などに飾り物を持参される家族もおられる。また、靴下や素足でも滑りにくいようマットが敷かれた部屋や、視力が低下された方に常時洗面台や居室の点灯、歩行器を置く場所の目印、見えやすい色のベッド柵カバーを付けるなど、安全面に配慮した個別支援に努めている。これらの取組は写真付きで運営推進会議の中でも説明されている。	飾り棚が付けられており、小物や置物など個々に応じて活用されている様子が見られた。居室前の暖簾については経年により傷みも見られることから、新たな物に交換されることでより雰囲気も柔らかくなると思われる。検討いただきたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の中はご本人が生活しやすいよう、家具などの配置をリハビリ職員と共に確認している。又、様々な所に目で見分かりやすいように文字や飾りなどで目印にして、できる限り自分で判断できるような配慮をしている。		